

2021 年度
事業計画書

学校法人 行吉学園

目 次

1	はじめに	p.1
2	2021年度の事業計画	p.2
	<中期目標・中期計画に基づく事業計画>	
I	教育に関する目標を達成するための計画	p.2
1	自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画	p.2
2	教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画	p.2
3	教育内容に関する目標を達成するための計画	p.2
4	教育課程に関する目標を達成するための計画	p.3
5	教育方法に関する目標を達成するための計画	p.3
6	国際化に関する目標を達成するための計画	p.3
II	研究に関する目標を達成するための計画	p.4
1	研究業績に関する目標を達成するための計画	p.4
2	学生の研究に関する目標を達成するための計画	p.4
III	社会貢献に関する目標を達成するための計画	p.4
1	社会貢献に関する目標を達成するための計画	p.4
IV	学生の進路に関する目標を達成するための計画	p.5
1	進路支援に関する目標を達成するための計画	p.5
2	専門就職に関する目標を達成するための計画	p.5
3	優良企業就職に関する目標を達成するための計画	p.6
4	公務員就職に関する目標を達成するための計画	p.6
5	Uターン就職に関する目標を達成するための計画	p.6
V	学生支援に関する目標を達成するための計画	p.7
1	学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画	p.7
2	経済的支援に関する目標を達成するための計画	p.7
VI	施設・設備に関する目標を達成するための計画	p.7
1	施設・設備に関する目標を達成するための計画	p.7

VII	入試広報に関する目標を達成するための計画	p.8
1	入試広報に関する目標を達成するための計画	p.8
VIII	幼稚園に関する目標を達成するための計画	p.8
1	幼稚園に関する目標を達成するための計画	p.8
IX	組織に関する目標を達成するための計画	p.9
1	定員充足に関する目標を達成するための計画	p.9
2	大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画	p.9
X	財政に関する目標を達成するための計画	p.9
1	健全財政に関する目標を達成するための計画	p.9
(別表)	I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画	p.11
3	法人の体制	p.18
I	設置する学校・学部・学科等（2021年度予定）	p.18
II	役員の概要（2021年4月1日予定）	p.19
III	教職員の概要（2021年4月1日予定）	p.19
IV	組織機構図（2021年4月1日予定）	p.20

1 はじめに

学校法人行吉学園は、建学以来、豊かな知性を育む教養教育と高度な知識・技術を養う実学教育を通じて女性の自立を支え、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成してきたところである。しかし、昨今の大学を取巻く環境は、受験人口の更なる減少や大手私立大学の定員増等の影響から大変厳しい状況下であり、本学が今後とも発展していくためには、これまでに積み重ねてきた丁寧な教育を基本としつつ、これからの社会が必要とする能力を身に付けた卒業生を輩出していかなければならない。

このため、学校法人行吉学園では、これらの要請に応えていくために取り組むべき各般の施策の方向性を、2019年度を初年度とする5か年で達成する中期目標として定め、また、中期目標を達成していくため行動計画として中期計画を策定したところである。

そこで、中期目標並びに中期計画を達成していくために2021年度に取り組むべき施策の中から主な施策について、事業計画として次のとおり策定する。

2 2021年度の事業計画

＜中期目標・中期計画に基づく事業計画＞

(注) □内は中期計画、「・」は中期計画に対応する事業計画を示す。

I 教育に関する目標を達成するための計画

1 自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

【I-1】

自立心・対話力・創造性について、到達度調査の改善をはかり能力獲得の測定ツールとして確立し、各学科等において3つのポリシーに沿った学生の能力の伸長が実現できているか検証を行う。

また卒業生アンケート等により、獲得した能力と社会で求められている能力に乖離がないか検証を行う。

【I-1-1】

- ・到達度調査は、2020年度との比較を踏まえて検証・改善を行う。
- ・学習環境の変化による影響に注視しつつ、3つのポリシー及びポリシーに基づく教育活動の点検・評価を行う。短大においては、3つのポリシーの再編を実施する。
- ・卒業生アンケートを実施する。

2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

【I-2】

各学科、研究科等において、ディプロマポリシーに掲げる能力が身につけているか検証するための指標を開発したうえで目標を設定し、目標達成に向けたカリキュラムの改編など各種施策を実行する。

【I-2-1】

- ・各学科、各研究科等の計画は別表のとおり

3 教育内容に関する目標を達成するための計画

【I-3】

本学を卒業した学生全員が身につけておくべき能力に関する資質とそれに関わる指標を開発し、教養科目のカリキュラムを精査する。全専任教員が教養科目運営に関わる仕組みを整備する。英語教育については全学で組織的な教育体制を整備する。

【I-3-1】

- ・学生全員が身につけておくべき能力に関する指標を開発する。
- ・「日本語検定」、「文章読解・作成能力検定」、「漢字検定」などの導入に関する具体案の策定を行う。
- ・須磨キャンパス、ポーアイキャンパスにそれぞれ専任の英語教員を配置し、両キャンパ

スにおける全学共通教育科目の英語科目のマネジメントを開始し、英語教育を円滑に運営する。

4 教育課程に関する目標を達成するための計画

【I-4】

ナンバリングを利用した履修指導を行い、学生の体系的な学習を進める。また、学生の学習時間の確保に向け、履修上限単位数を引き下げるとともに、教養科目及び各学科における専門科目の科目数の圧縮をはかる。さらに、GPA を運用するうえでの課題を整理し、学生指導において有効な活用方法を開発する。

【I-4-1】

- ・学生に対して、オリエンテーションを通じてナンバリングの意味を理解させる。
- ・短大ではナンバリングの体系化の再検討ならびに実質的な活用に取り組む。
- ・2022年度からのCAP制厳格実施に向け、資格科目も含め各学科が削減可能な科目を精査し、廃止科目を決定する。
- ・学生部、学長室等の各部局とのGPAの情報共有を行い、学生の教育指導に活用する。

5 教育方法に関する目標を達成するための計画

【I-5】

授業アンケートを充実させ、教育方法の改善につながる仕組みを整備する。またFD活動に全教員が参加する体制を整備し、教育支援ツールの活用等を推進する。教育効果に向け、IRデータの収集・分析を進める。

【I-5-1】

- ・授業アンケートの実施結果を踏まえた授業改善の施策に取り組む。
- ・「神戸女子大学・神戸女子短期大学FD活動に関する方針」に基づき、全学及び各学科・専攻におけるFD活動を推進する。
- ・教育効果を徹底して高めるために授業方法の転換、授業時間の効率化、学習成果の可視化に取り組む。
- ・Kissシステムの表示改善、manabaの機能改善、ICT環境の基盤構築など、今後もコロナ禍において必要となる対応について検討を進める。

6 国際化に関する目標を達成するための計画

【I-6】

英語圏を中心に派遣留学生及び受入留学生の増加をはかる。派遣留学については、既存プログラムの内容の検証・改善を行うとともに、外国語運用能力の向上、国際交流に対して保証人の理解を深めるための活動を行う。留学生の受入については、提携校の開拓と受入体制の整備を行う。

【I-6-1】

- ・オンライン・プログラムの充実・単位化を行う。
- ・オンライン国際シンポジウムにて上級者が海外大学生と意見交換できる機会をつくる。
- ・英語だけでなく、多言語学習、異文化交流の機会となるグローバルカフェを主にオンラインで実施し、昨年度の参加者数の実績を超えるよう目指す。
- ・1回生及び1回生の保護者を対象に、オンライン・プログラム及び留学説明会を実施する。

II 研究に関する目標を達成するための計画

1 研究業績に関する目標を達成するための計画

【II-1】

教員の職位ごとに一定期間で最低限必要な研究業績の基準を設定し、毎年チェックを行う体制を整備する。研究活性化に向け、学外研究費の情報収集と学内への周知を強化する。

【II-1-1】

- ・社会貢献分野との連携のもとで研究を活性化させるべく、大学・短大双方に関わる学外研究費情報の収集・周知に努める。

2 学生の研究に関する目標を達成するための計画

【II-2】

学生の研究を活性化するため、大学院生と学部生が交流する機会を増加させるとともに、学会等の情報を提供して参加を促す。また、特別に優れた学部生・短大生の研究・探究活動について表彰制度を整備する。

【II-2-1】

- ・コロナ禍においても可能な企画を工夫しながら、大学院生と学部生の活発な交流をさらに推進していく。
- ・オンライン開催も含めた学会情報の提供、それへの対応方法の紹介も含め、学生への学会参加を積極的に呼びかけていく。
- ・学部学生と大学院生がともに参加可能なプロジェクトを計画・推進する。(健康スポーツ栄養学科)

III 社会貢献に関する目標を達成するための計画

1 社会貢献に関する目標を達成するための計画

【III-1】

地域や企業・団体の課題解決を目的とした連携活動を増やす。学生の教育効果の充実をはかりつつ、地域連携、公開講座、産学連携、高大連携等事業として毎年複数稼働させる。共同研究、受託研究の推進及び各種学協会の公募型研究への教員の応募を支援する。

【Ⅲ-1-1】

- ・ 大学間連携組織、NPO 法人との連携強化を図り、大学コンソーシアムひょうご神戸での活動を活性化するとともに、企画されたプログラムへの積極的参加を促進する。
- ・ 地域貢献活動の情報蓄積と学生への案内システムとして SNS 及び HP を活用したツールの開発を行う。
- ・ 高大連携事業については、すでに教育交流、交流研究活動が行われている高校と協定を積極的に締結し、協同の活動実績を積み上げる。

IV 学生の進路に関する目標を達成するための計画

1 進路支援に関する目標を達成するための計画

【IV-1】

1 年次から卒業まで途切れのないキャリア支援活動を展開するとともに、学科等とキャリアサポートセンターの連携を強化して丁寧な支援を行う。保証人への情報提供を進め、保証人と協力した進路支援を行う。就職だけでなく進学への支援も強化する。

【IV-1-1】

- ・ オンデマンドとライブを組み合わせた SPI 対策講座、公務員試験対策講座、資格講座のラインナップを充実させる。
- ・ 保証人への情報提供については、教育後援会の説明内容及びホームページを活用した情報発信を充実させる。
- ・ S-NAVI による 2 回目の「進路決定満足度調査」を実施し、調査内容の分析内容を学生指導及び企業対応に役立てる。

2 専門就職に関する目標を達成するための計画

【IV-2】

各学科の専門性を活かした就職を支援するため、学科等とキャリアサポートセンター・就職支援センターの情報共有、職種ごとの就職ガイダンスを実施する。就職の前提となる資格試験や教員採用試験の合格に向けて、関係機関との連携を強化する。

【IV-2-1】

- ・ 学科と連携した職種ごとの就職ガイダンスとして、前期より企業の人事の方や業界に触れることができるセミナーを企画する。
- ・ 今年度より始まる教育学科 2 回生の「学校インターンシップ」の円滑な実施に向け、教育委員会と連携して進めていく。
- ・ 香川県との懇談をモデルに地元兵庫県、神戸市、さらに教員採用試験合格者の多い自治体との懇談会実現に向けた対応を進める。

3 優良企業就職に関する目標を達成するための計画

【IV-3】

事業規模・内容に加え、離職率等の状況も含めた優良企業に多くの学生が内定を獲得できるための支援を行う。基礎学力や情報スキル向上のため、対策講座や資格講座の活用をはかる。

【IV-3-1】

- ・新規メニューとして PBL 型インターンシップ実施の準備を進める。
- ・オンデマンドとライブを組み合わせた SPI 対策講座を推進する。
- ・資格サポートオフィスと連携し、既存講座の受講率の向上と、新規講座の受講促進を図る。
- ・100 社以上の大企業や優良企業を招き、対面式とオンライン方式での学内合同企業説明会を行う。また、例年以上の個別企業説明会を実施する。

4 公務員就職に関する目標を達成するための計画

【IV-4】

公務員就職を増やすため、1 年次から意識の涵養をはかる。また公務員試験対策講座の受講を勧め、各地域の試験情報、試験内容を提供するとともに、面接対策を実施する。

【IV-4-1】

- ・資格サポートオフィスと協力し、1 年次から公務員対策講座の開設や公務員業務のガイダンスを増やし、啓蒙する。
- ・U ターン希望者を中心に公務員試験の受験を促す。

5 U ターン就職に関する目標を達成するための計画

【IV-5】

U ターン希望率や U ターン就職率等の調査を実施したうえで、U ターン希望者の就職を確実に実現する支援を行う。また、地方公共団体との U ターン協定を推進するとともに、地方優良企業との関係構築をはかる。

【IV-5-1】

- ・地方企業との関係強化を目指し、WEB または対面形式による地方優良企業の学内説明会を増加させる。
- ・中四国地区で就職協定未締結の島根県と高知県の 2 県と協定を結ぶ。
- ・学生アンケートや進路希望調査を基に学生の U ターン希望者数を把握し、U ターン就職率を算出するとともに特長化を図る。

V 学生支援に関する目標を達成するための計画

1 学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

【V-1】

学生満足度及び帰属意識に関する指標を開発する。退学率低減のため、退学者予備軍の把握が可能な仕組みと、関係部署によるフォロー体制を整備する。学生の出身地域別コミュニティ組織化や、上級生によるピアサポート制度を活性化させる。また、各クラブの活性化をはかるためのクラブ紹介の方法や、魅力あるクラブ育成の方策を検討する。

【V-1-1】

- ・学生アンケートの調査結果から学生満足度を抽出し、12月中に目標値を設定する。
- ・長期欠席から退学に移行するケースが多くみられることから、「継続して欠席する学生」が把握できるような仕組みづくりを検討し、フロー化する。
- ・昨年度取り組んだピアサポート制度の実施結果を検証し、内容のブラッシュアップを行う。
- ・オンラインを活用し、クラブ勧誘につながるような施策づくりを行う。
- ・学生の出身地別コミュニティ組織の組織化に向けて、関係者間で協議し骨組を構築する。
- ・クラブ活性化のための専門的知識やスキルのある指導者の確保について、定期的にクラブ活動の学生にアンケートを実施し、ニーズを確認する。

2 経済的支援に関する目標を達成するための計画

【V-2】

公共団体による奨学金制度及び福祉や看護などの資格取得と就職支援に関する奨学金の情報収集を強化し、学生への周知を図る。

【V-2-1】

- ・コロナ支援対策を含む公共団体等の奨学金の情報を収集し、関係学生に迅速に周知を図る。
- ・公共団体、福祉施設及び病院等における奨学金制度の情報について、他部署との連携を図りながら学生への周知および的確な対応を行う。

VI 施設・設備に関する目標を達成するための計画

1 施設・設備に関する目標を達成するための計画

【VI-1】

施設・設備及び教育環境に関する学生満足度指標を開発し、学生のニーズに配慮した整備計画を策定する。安全性や劣化状況を踏まえた施設・設備のメンテナンス及び更新を行う。学生の大学生生活充実に資するスペースの改修を進める。

【VI-1-1】

- ・施設・設備及び教育環境に関する学生へのアンケートを実施し、これをもとに必要な整

備を実施する。

- ・須磨キャンパスに歩車分離歩道設置及び A 館から R 館通路屋根設置後の余剰スペースに学生が休息できるイス・テーブルの設置を進める。
- ・安全性や劣化状況を踏まえ、施設・設備のメンテナンスを適切に進める。

VII 入試広報に関する目標を達成するための計画

1 入試広報に関する目標を達成するための計画

【VII-1】

各学科との連携を強化し、就職・資格取得に強い本学の特長に関する積極的な広報活動を実施する。質の高い情報提供や出前授業による高校との関係強化をはかるとともに、地域や高校の特徴に応じたより戦略的な広報活動を展開する。高大接続改革に対応した入試制度の改革を進め、多面的な評価により意欲・能力ともに高い学生の獲得を実現する。

【VII-1-1】

- ・各学科での取り組み等、教育に関する情報や、資格取得や就職支援体制について、より具体的な情報発信に取り組み、他大学との差別化を図る。
- ・志願者減少のエリアと高校を特定し、減少原因の分析と志願者増加に向けた戦略を策定し、高校訪問の強化などを実行する。
- ・地域ごとに入試、志願者の動向を分析し、その結果に応じた広報の展開、ツールの作成を行う。
- ・リニューアル後のオフィシャル HP の充実を図る。

VIII 幼稚園に関する目標を達成するための計画

1 幼稚園に関する目標を達成するための計画

【VIII-1】

地域の幼児数の将来予測や他園の運営状況を分析し、定員確保に向けて運営形態、運営方法の見直しをはかる。無償化を含めた就学前教育制度の変革に対応していく。

【VIII-1-1】

- ・2021年度からの認定こども園開園に伴い、新たな制度に基づき教育・保育・運営等を軌道に乗せる。
- ・ホームページの積極的更新、ICT化を進め、保護者にとって開かれ、安心できる園運営を行う。
- ・今後も神戸市の動向を注視し、認定こども園開園後には2・3号認定児の定員増加を要望していく。

Ⅸ 組織に関する目標を達成するための計画

1 定員充足に関する目標を達成するための計画

【Ⅸ-1】

社会が必要とする人材及び受験生が志望する分野の動向を把握し、常時各学科等の教育内容の見直しや新学科等の設置を含め学科の在り方等を検討していく。

定員未充足を解消するための対策基準の周知・徹底をする。

【Ⅸ-1-1】

- ・2022年度の心理学部開設に向けた準備を進める。
- ・急激な定員未充足が生じている管理栄養士養成課程については、管理栄養士養成課程改革検討委員会の改革案に基づき、まもなく学科より提示される対応策の検証を踏まえ、具体的な対応策を実行する。
- ・定員未充足が継続している社会福祉学科については、改組または見直しを図る。
- ・大学・短大各学科全ての定員充足状況を鑑み、改組または見直しを図る。

2 大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

【Ⅸ-2】

法令上の制約等を踏まえたうえで、大学と短大の教学部門の組織や委員会等について統合もしくは合同設置等を実現し、効率的かつ効果的な運用が行えるよう、教学及び事務組織の体制整備をはかる。

【Ⅸ-2-1】

- ・事務組織運営の見直しを行う中で、同時に各部署の所掌業務を整理し、統一に向けた提案を行う。
- ・大学・短大一体的運用について、2021年8月末までには効率の良い運営方策を策定し、2022年度からの事務組織変更実施に向けた周知を図る。
- ・須磨キャンパスに主となる部署がある内部質保証、FD・SD、地域連携、学習支援、国際交流の運営上の諸課題については、事務組織の改正と併せた検討課題とする。

X 財政に関する目標を達成するための計画

1 健全財政に関する目標を達成するための計画

【X-1】

寄付金や補助金及び資産運用収入の増加をはかるとともに、管理経費や人件費等の支出費の見直しを行い、財務体質の強化を進める。人件費については、将来に亘り運営が可能な人員配置及び各種制度の変更を検討する。各学科の科目数・コマ数の適正化をはかり、大学・短大全体で効率的な教育課程を整備する。

【X-1-1】

- ・運用可能資産の効率的な運用を行う。
- ・補助金収入増に向け、補助金申請業務理解の底上げを図るため、担当者向け説明会などを開催する。

- ・専任教員の労務管理対応として、システムによる勤務時間管理を円滑に行うとともに、長時間勤務者に対して、関係者と連携し勤務時間の縮減に向けて調整する。
- ・教員に Web 旅費システムを円滑に導入する。
- ・履修者数制限による授業不開講及び廃止科目制定のルール適用を開始する。
- ・大短共通科目を増やすことにより、編入時の認定単位数を明確化し、学園内編入の促進を図る。

(別表)

I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

神戸女子大学

文学部	2021 年度計画
日本語日本文学科	<p>日本語運用能力、表現力及びコミュニケーション能力向上に向けた取組や、キャリア意識涵養に向けた取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・ゼミで発表・討論・文章作成の機会を維持・拡充する。・教養科目の語学、専門科目のレベル問題などについて、新たな問題点の把握とその是正を図る。・就職、院進学をゼミ単位で管理する。
英語英米文学科	<p>専門性及び英語運用能力強化に向けた取組とカリキュラム改編を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・カリキュラム改編に伴う具体的な科目をリストアップする。・TOEIC 点数の引き上げに向けた有効な方策として、引き続き上級、中級、初級のレベル別 3 クラスに分けて、外部より実績のある優秀な講師を招聘して短期集中講座を開講する。
国際教養学科	<p>国際教養修得度の指標開発を行うとともに、専門性及び語学力強化に向けた取組みとカリキュラム改編、学生の研究活性化及びキャリア意識涵養に向けた取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・学科将来計画委員会で作成する素案を基に、年内に指標を確定する。・多読英文図書 Graded readers の貸し出し業務を開始する。・3-4 回生を中心に共同で学ぶ科目の新設や、3 回生卒論テーマ発表会への 2 回生参加を実施する。・With コロナ、After コロナを見据えた OLP (On Line Program) を本格的に稼働させる。・2022 年度からのカリキュラム全面改定に向け、関係部門との調整、実施準備を進める。
史学科	<p>歴史についての基礎知識を充実させ、歴史学の基本原則を堅持しつつ、表現力、コミュニケーション能力の向上をはかるカリキュラム編成と指導体制を検討する。学生の研究活動の活性化、および異学年交流のための合同ゼミ発表会等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">・指導体制の検討により配置換えを行った「講読・実習群」の諸科目および歴史についての基礎知識や基礎技能を充実さ

	<p>せるために新設した科目の教育効果を検討し、必要に応じて改善案を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自学」や異学年の交流の場として、コロナ禍により活発になった manaba の積極的活用を更に進める。 ・卒論表彰制度を継続するとともに、卒論発表会を企画する。
教育学科	<p>子どもの理解及び指導力に関する指標の開発、専門性強化及び教採合格に向けた取組とカリキュラム改編を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学の指標調査を参考に、子どもの理解及び指導力に関する指標を作成する。 ・中学英語教諭免許課程の充実に向けた体制を構築する。 ・教職支援センターと連携し、教員採用対策、TOEIC テスト受験等の取組について学科としての体制を確立する。 ・英語力・英語指導力の向上を図るため、海外留学における教育学科独自のプログラムを構築する。 ・ICT 機器の有効活用を図り、学生の実践的指導力向上に努める。 ・卒業生を招いてのシンポジウムを引き続き実施し、オンラインでの配信も行うことで、1 年次から教員、保育士採用試験に向けた意識の涵養を行う。
家政学部	
家政学科	<p>コース体制の問題点の把握と改善を実施し、家政学の体系的な学びを構築するためのカリキュラムの見直しを行うとともに、家庭科教員養成校としての役割の強化及び各種資格を活用した学びを展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年編成グループワークを 2022 年度に実施できるよう具体的な計画と体制づくりを始める。 ・新カリキュラムの年次進行をふまえ、各コースにおいて資格取得に向けての学生指導強化や、教育の充実のための授業方法の検討、体験型・地域連携型授業の実施等を通じて一層の改善をはかる。 ・新カリキュラムのもと、学生の授業負担におけるコース間の平準化や教育の改善がなされたかについて、昨年度承認されたアセスメントポリシーを用いてアセスメントを行い、チェックを続ける。
管理栄養士養成課程	<p>管理栄養士のリーダーとなりうる人材を養成するため、食と健康のプロに関する指標を開発する。専門性強化及び国家試験全員合格に向けた対策とカリキュラム改編に取り組む。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・指標開発のために学科のルーブリックを策定し、評価に活用する。 ・2022年度からのカリキュラム改正実現を目指し、具体的な実施計画を策定する。 ・卒論発表会の実施時期や方法について、具体的計画を策定する。 ・国試対策の模試成績及び通常講義の成績を学科内で共有し、成績不振者のフォロー体制を強化する。
健康福祉学部	
社会福祉学科	<p>社会福祉士国家試験全員受験に向けた取組と、カリキュラムの改編を行う。高校、短大等への出張講座に出向き、社会福祉に対する理解を目指す。学生の研究活性化や、キャリア意識の涵養強化に向けた取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの進行管理と初年度の課題を析出し、2年度目に向けての対処方法を策定する。 ・GPAに基づく成績下位者の担任による面談を定例化し、成績改善について学科会議での報告を義務化する。 ・社会福祉士合格率 85%、精神保健福祉士合格率 100%、介護福祉士合格率 100%、介護福祉士・社会福祉士のW受験合格率 90%を目指す。 ・兵庫県進路選択学生等支援事業の資金を獲得した上で、20校程度を目標に、高校等での出張講座を行う。 ・学科会議で就職内定先一覧を検討し、未内定者の指導について、ゼミごとの報告を定例化する。
健康スポーツ栄養学科	<p>スポーツ関係を重視した専門性の強化及び学科の特長明確化に向けた取組とカリキュラム改編を行う。また、学生の研究活性化、大学院希望者の掘り出し、キャリア意識強化のための取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育教諭免許のアピールを中心に、学科ホームページを更新する。 ・保健体育教員免許・健康運動実践指導者資格・スポーツ栄養アドバイザー資格の取得希望者数増加を図る。 ・修論中間発表会・修論発表会は、2,3,4年生が出席しやすい日程で調整し、Zoomなどでも配信し、学外でも聴講できる体制の構築を目指す。 ・これまで大学院進学希望者の無かったゼミから大学院進学希望者が現れるよう、学科・研究科で協力していく。

看護学部	
看護学科	<p data-bbox="584 232 1348 412">教育の特色化及び質保証に取り組む。保健師・助産師・看護師国家試験全員合格に向けた1年次からの学習支援を行う。充実した実習先との連携強化を行う。教員の看護実践活動の推進を行う。</p> <ul data-bbox="584 434 1348 896" style="list-style-type: none"> ・教育評価アンケートの結果に基づき、担任との面接で学生自ら1年間の目標と学習方法を立案するための様式を作成し、活用することで自立した学びを支援する。 ・中長期的に蓄積すべき看護学科内のデータ積み上げのシステムを構築し、項目や内容を精錬する。 ・前期後期の成績会議に国試対策委員長の参加を義務付け、より強力な学習支援体制を構築する。 ・専門看護師資格をもつ教員の看護実践活動推進のための体制構築と、学科教員の実践活動の状況と課題を明らかにし、推進できる体制を構築する。

神戸女子大学大学院

<p>文学研究科</p>	<p>指導教員の研究能力の向上をはかるとともに、研究の魅力を普及して学部生の進学意欲を喚起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月の推薦入試の実施に向けて学内での広報に努め、志願者の確保を目指す。 ・ 教員志望者は1次試験全員合格を目標に基礎学力の向上を図り、進路決定率100%を目指す。 ・ 学部教員の業績の積み上げを促し、大学院担当教員層を厚くする。
<p>家政学研究科</p>	<p>研究の強化、学部との接続強化、大学院のPR施策の強化を図る。また、院生の就職支援、魅力ある制度の新設にも力を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員の業績の客観評価に「他研究室、他大学との交流」を盛り込み、交流の動機付けとする。 ・ 現状の教員評価案の改良版を作成し、数値化の検討を行うためのワーキンググループ会議を隔月1回程度開催する。 ・ 教員の業績の積み上げを促すために、業績評価に関するワーキンググループの会議を隔月1回程度開催する。 ・ オリエンテーション、就職説明会での大学院紹介に加え、学部生向けの説明会を開催する。コロナ禍が収束すれば、オープンキャンパス、教員免許更新講習での大学院紹介も再開する。
<p>健康栄養学研究科</p>	<p>大学院の魅力を伝えるため、学部講義内で大学院生の発表会実施や大学院のHPを魅力あるものに変えていく。他研究科または近隣大学とのダブル・ディグリーやジョイント・ディグリーの検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Zoom や manaba を用いて、コロナ禍でも誰もが大学院生の研究活動に触れられるような流れを構築する。 ・ 大学院進学者増を目指し、大学院への進学実績がない大学院担当教員については、学部学生への研究指導の見直しを依頼する。 ・ 情報センターと相談し新しいHPへの変更を実施していく。
<p>看護学研究科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置申請内容に沿い、計画どおり着実に履行する。

神戸女子大学専攻科

<p>学校教育学専攻科</p>	<p>実践的で高度な能力に関する指標を開発・作成し、目標数値を設定するとともに、学部との接続強化はかる。学習の前倒しをしながら、1次試験合格レベルの学力を養い高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的で高度な能力に関する指標を開発し、数値目標を設定する。 ・入学予定者に対して、前年12月から学習の前倒しをし、筆記および面接試験の力を合格レベルまで高める。
-----------------	---

神戸女子短期大学

<p>総合生活学科</p>	<p>学生の学修成果・総合的学び及び学問に基づく実践力の強化に向けた取組とカリキュラムの改編を行う。また、各種資格を活用した教育を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科目群のカリキュラムについて、資格取得に向けた科目の整理を行う。 ・学習意欲の高い学生には編入学の指導を行う。 ・ビジネス科目群の資格取得を奨励し、実践力に繋がる商工会議所実施の検定を授業と連携して実施していく。
<p>食物栄養学科</p>	<p>専門性の強化、特長の明確化及び学生の意欲引き上げに向けた取組と、既存科目の内容強化を行う。卒業生を大切にすることを特長化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの食育を特長化するため、小大連携を継続して実施する。 ・昨年コロナ禍で中止となった幼児教育学科と連携した市内保育園との交流会は、継続して実施する。 ・卒業生の国家試験対策は、オンライン講座など卒業生が受講しやすい講座形態で実施する。HP以外の卒業生への周知方法を整備する。
<p>幼児教育学科</p>	<p>保育実践力に関する指標開発及び向上を図る取組を行うとともに、公立幼稚園教諭・保育士採用試験合格に向けた対策強化を行う。保育士再就職支援講座を開設し、卒業生支援を実施する。</p>

	<ul style="list-style-type: none">・指標開発、目標値設定に向けてアンケート実施の準備を進める。・保育実践力引上げに向けた取組は、コロナ禍において感染予防対策を徹底し、あるいはオンライン活用など多様な手段を用意して実施を継続する。・公立幼・保合格のために教職連携センターとの連携を密に取り、学生への啓発、全教員への研修の具体的検討に取り組む。・「社会福祉主事任用資格」と「認定ベビーシッター資格」が取得できるようカリキュラムの改変を行う。
--	--

3 法人の体制

I 設置する学校・学部・学科等（2021年度予定）

区 分	学部・学科等			入学定員	収容定員	予定数
神戸女子大学 大 学 院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	16	14
			後期	2	6	3
		生活造形学専攻	前期	6	12	0
			後期	2	6	0
		小 計			18	40
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	8	0
			後期	2	6	0
		英 文 学 専 攻	前期	4	8	0
			後期	2	6	1
		日本史学専攻	前期	4	8	4
			後期	2	6	0
		教育学専攻	前期	4	8	1
	後期		2	6	2	
	小 計			24	56	8
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻		4	8	9
看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	前期	8	16	17	
		後期	3	9	13	
合 計			57	129	64	
神戸女子大学	家 政 学 部	家 政 学 科		80	320	358
		管理栄養士養成課程		160	620	565
		小 計		240	940	923
	文 学 部	日本語日本文学科		60	240	238
		英語英米文学科		60	240	255
		国際教養学科		60	180	221
		史 学 科		60	240	249
		教 育 学 科		165	660	653
		小 計		405	1,560	1,616
	健康福祉学部	社会福祉学科		80	320	281
		健康スポーツ栄養学科		80	320	274
		小 計		160	640	555
	看護学部	看護学 科		90	350	353
学校教育学専攻科			15	15	1	
合 計			910	3,505	3,448	
神戸女子 短期大学	幼児教育学科		80	180	110	
	総合生活学科		100	220	174	
	食物栄養学科		60	180	116	
	合 計		240	580	400	
幼保連携型認定こども園 神戸女子大学附属高倉台幼稚園			—	160	167	
総 計			1,207	4,374	4,079	

II 役員の概要 (2021年4月1日予定)

(1) 定数等

区分	定数	実数			任期	備考
		常勤	非常勤	計		
理事	8人	5人	3人	8人	4年	1号理事(学長)の任期は在職期間
監事	3人	—	3人	3人	4年	

(2) 寄附行為の選任条項

(理事)

第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 神戸女子大学長

(2) 評議員のうちから評議員会において選任した者 4人

(3) 学識経験者のうちから理事会において選任した者 3人

2 前項第1号及び第2号の理事は、学長又は評議員の職を退いた時は、理事の職を失うものとする。

(監事)

第7条 監事は、この法人の理事又は職員(学長、教員その他の職員を含む。)又は評議員以外の者のうちから理事会において選任する。

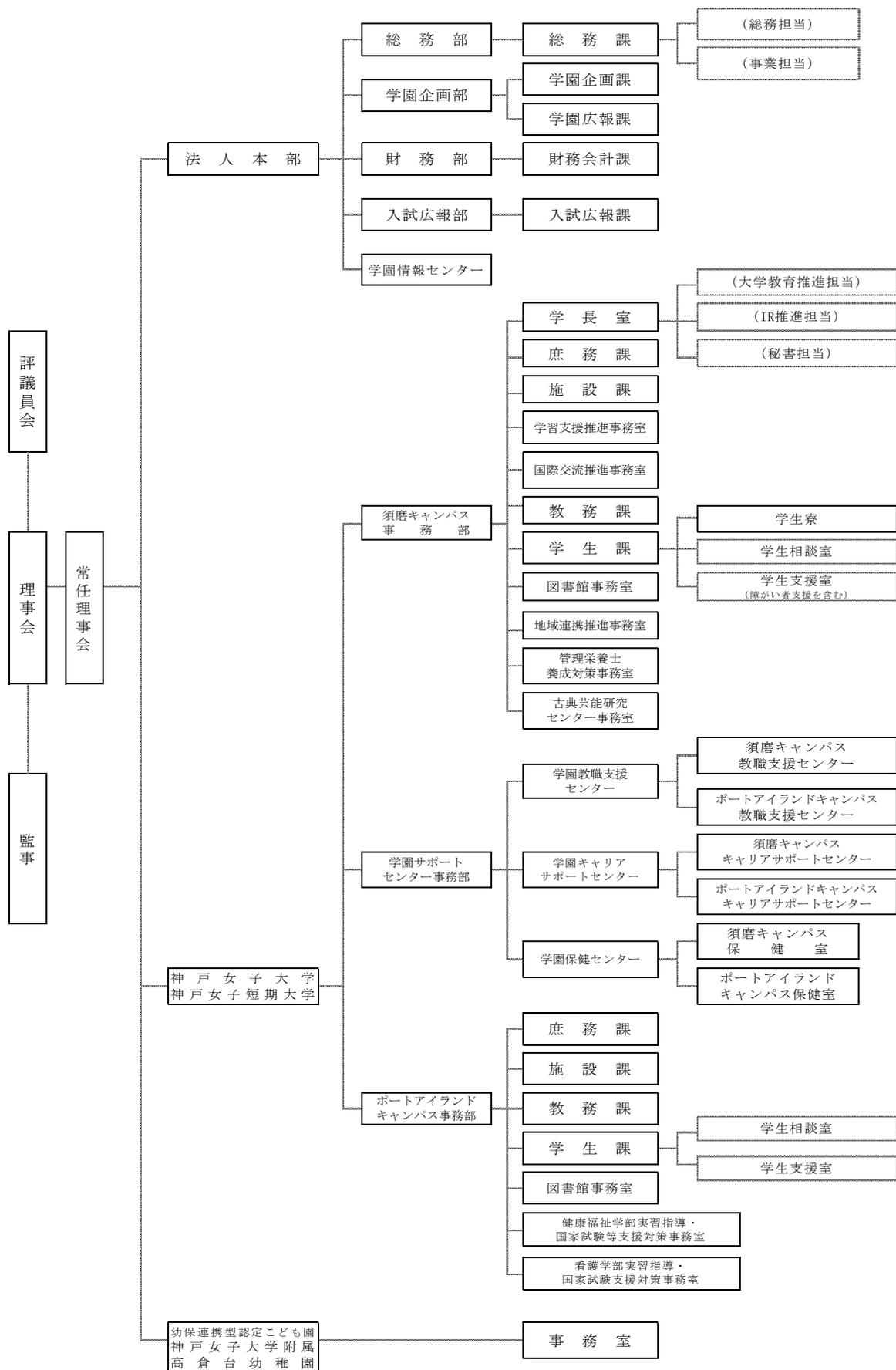
(3) 役員一覧

区分	氏名	就任年月日	重任年月日	選任区分	選任条項
理事長	行吉 宜孝	H31.4.1	—	学識経験者	6-1-3
理事	栗原 伸公	H31.4.1	—	神戸女子大学長	6-1-1
理事	今井 修平	H18.4.1	(H30.6.29)	評議員	6-1-2
理事	前田 研史	H31.4.1	—	評議員	6-1-2
理事	伊吹 眞澄	H30.6.29	—	評議員	6-1-2
理事	杉原 基弘	H31.4.1	—	評議員	6-1-2
理事	根岸 成直	H18.6.29	(H30.6.29)	学識経験者	6-1-3
理事	小川 清四郎	H30.6.29	—	学識経験者	6-1-3
監事	横田 成樹	H26.6.29	(H30.6.29)	理事会選任	7-1
監事	亀井 尚也	H23.5.27	(H30.6.29)	理事会選任	7-1
監事	芳木 伸吉	H18.6.29	(H30.6.29)	理事会選任	7-1

III 教職員の概要 (2021年4月1日予定)

区分	法人本部	神戸女子大学	神戸女子短期大学	附属高倉台幼稚園	合計
専任教員数	—	183	34	13	230
専任職員数	9	72	9	3	93
計	9	255	43	16	323

IV 組織機構図 (2021年4月1日予定)





「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

Tel : 078-303-4712

Fax: 078-303-4713